

■レンジ相場が続く日本株

日経平均株価は昨年9月以降、38,000円～40,000円でのレンジ相場が続いています(図表①)。米トランプ政権による関税政策への警戒感や、中国のAI開発企業「DeepSeek」の登場によって既存の米ハイテク企業の優位性が揺らぎかねないとの懸念が高まったことが、背景にあります。

日経平均は、自動車を中心とした外需関連および米ハイテク株との連動性が高い半導体関連の指数への寄与度が大きいいため、上記要因によるこれらの銘柄群の下落の影響を受けやすい状況にあると言えます。

引続きトランプ大統領から発せられる関税政策は読みづらく、また「DeepSeek」を巡る懸念もいまだ燦々していることから、日経平均は短期的に上値が重い展開が続くと思われます。

■東証グロース市場250指数が大幅反発

外部環境を巡る不透明感を背景に、外需関連銘柄は上値が重い展開が続いていますが、一方で内需・新興銘柄の代表的な株価指数である東証グロース市場250指数は、対照的に力強い上昇を見せています(図表②)。

東証グロース市場250指数には内需関連銘柄が多いことから、相対的な関税の影響の小ささや、為替市場における過度な円安の是正による業績メリットが意識されたことが背景にあると思われます。また、同指数は2021年後半に大きく下落して以降長らく低迷状態にあったことから、割安感に着目した短期的な資金が入ったことで上昇に弾みがついたと想定されます。

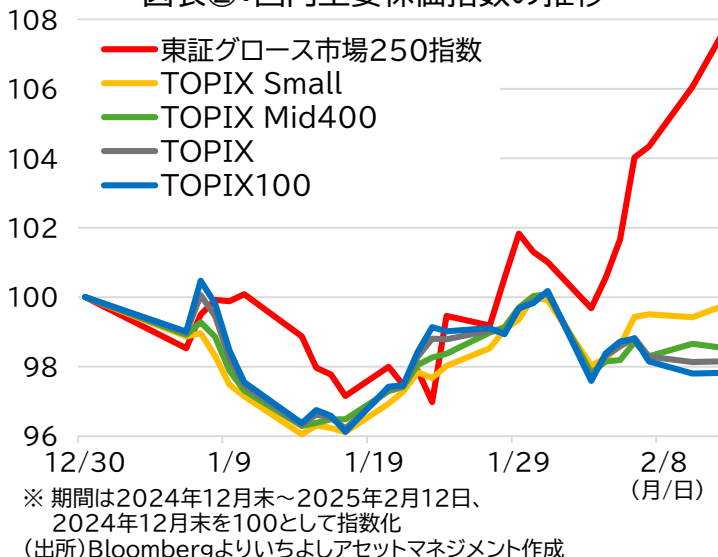
今後は同指数が本格的な上昇へと至るかに注目が集まりますが、それには海外マネーの継続的な流入が必要と思われます(図表③)。

昨年11月に海外投資家による月間の買い越し額が市場再編以降で最大を記録した際には、グロース市場における需給改善が進むとの期待が高まりましたが、翌12月は小幅なものにとどまり、今年1月は再度売り越しへと転じました。今後の海外投資家の売買動向に注目が集まります。

図表①:日経平均株価の推移



図表②:国内主要株価指数の推移



図表③:グロース市場における海外投資家の売買動向と東証グロース市場250指数の推移

